

<https://jacobin.com/2026/01/venezuela-response-trump-attack-diplomat-interview>

■ドナルド・トランプの攻撃に対するベネズエラの反応の内側

インタビュー カルロス・ロン

ベネズエラの元外交官がジャコビン紙に対し、国家、軍、国民の勢力が米国の軍事侵略にどう対応しているか、そして次に何が起こるかについて語った。

インタビュアー バスカーラ・サンカラ

昨日、米国はベネズエラに対して直接の軍事攻撃を強行し、ニコラス・マドゥロ大統領を拉致し、カラカス周辺を攻撃した。これは国際法の重大な違反であり、地域をより広範な紛争に巻き込む危険性がある。

ベネズエラ政府関係者とボリバル計画の支持者たちがこれらの出来事をどう解釈しているのか、そして次に何が起こると考えているのかを理解するため、ジャコビンの創刊編集者バスカーラ・サンカラ氏は昨夜、長年の制裁と外交対立の間、ベネズエラ政府と米国的主要な交渉役を務めた元ベネズエラ外交官カルロス・ロン氏と話をした。

※ ※ ※ ※ ※ ※ ※

バスカーラ・サンカラ

カルロスさん、読者に自己紹介をお願いできますか。

カルロス・ロン

私は現在、独立した地政学研究者兼アナリストとして活動しています。以前はベネズエラの外務省に勤務しており、ブラジルおよびアメリカ合衆国でベネズエラ代表を務めました。また、2018年5月から2025年1月までは、北米担当外務副大臣を務めていました。

バスカーラ・サンカラ

それ以前には、アメリカ合衆国でかなり長い期間を過ごし、学ばれてきたと伺っています。ウゴ・チャベス率いるボリバル革命に共感し、関わるようになったきっかけは何だったのでしょうか。また、それはあなたにとってどのような意味を持っていましたか。

カルロス・ロン

アメリカでの移民生活は、私に階級意識を育て、不平等を理解し、社会正義を志すきっかけを与えてくれました。アメリカには多くの社会闘争や変革の歴史があり、それらは非常に刺激的で、進歩的な政治思想を形成する力を持っています。私がこうした政治思想を研究していたまさにその時期に、ボリバル革命が勃発しました。したがって、新憲法の起草と民主

主義の急進的な深化を目指すこのプロジェクトが、社会変革のための共同の取り組みに私を呼びかけていると感じたのは、極めて自然なことでした。

私の祖父は、アメリカに支援されたマルコス・ペレス・ヒメネスのファシスト独裁政権に抵抗していました。チャベスの呼びかけは、私自身の個人的経験と共に鳴しただけでなく、マーティン・ルーサー・キング・ジュニアやマルコム・Xの思想、さらにはアパラチア地方、サウスブロンクス、ベネズエラのバルロベントといった場所を問わず、貧しい人々の苦しみは克服されなければならないというアメリカの急進的伝統とも深く共鳴しました。

バスカー・サンカラ

現在のベネズエラにおける行政権力の状況について、どのような点が確認できますか。また、帝国主義的な軍事的圧力のもとで、どのように意思決定が行われているのでしょうか。

カルロス・ロン

2026年1月3日の夜、ベネズエラ憲法裁判所最高裁判所は、ニコラス・マドゥロ大統領が米軍に拉致されたという事態を踏まえ、行政の継続性と国家防衛を確保するために、デルシエ・ロドリゲス副大統領を暫定的に大統領に就任させる必要があるとの判決を下しました。閣僚全員、軍司令官全員、そして州政府の指導部全員は留任しています。ベネズエラには憲法上の正統な大統領であるニコラス・マドゥロ氏が存在しており、同氏が拉致されているにもかかわらず、政権交代は起きていません。

バスカー・サンカラ

現在、ベネズエラ国内で正常に機能しているものは何でしょうか。通信、エネルギー、交通、統治のうち、どの分野に混乱が見られますか。

カルロス・ロン

国の大半は通常どおり機能しています。通信は引き続き機能しており、公共、民間、地域の各メディアも通常どおり活動しています。一方で、攻撃の影響を受けた地域では停電が報告されています。ラ・カルロタ空港およびチャラヤベ空港も攻撃を受けましたが、主要空港では商業便の運航が再開される予定です。大統領の拉致という重大な問題を除けば、統治機能はほぼ維持されており、深刻な混乱は生じていないと言えます。

バスカー・サンカラ

現時点で、ベネズエラ軍は政治的にどのような立場を取っているのでしょうか。

カルロス・ロン

襲撃事件が発生した当夜、国防大臣が表明したとおり、ベネズエラ軍は米軍の侵略と大統領拉致に対抗し、国家防衛のために動員されました。軍は外部からの侵略に直面する中で、

驚くほどの団結力と結束力を示しています。その結果、ベネズエラは概ね平穏かつ正常な状態を保っています。

バスカー・サンカラ

批評家の中には、ボリバル・プロセスは今日、国民主権よりも強制力に依存していると指摘する人もいます。政府への実質的な支持を示す根拠として、どのような点を挙げることができますか。

カルロス・ロン

そのような言説は、長年にわたり新自由主義的かつ保守的な政治プロジェクトによって民衆の支持を獲得できなかった人々によって広められてきました。ボリバル革命が、貧困、政治的排除、公民権の剥奪を克服するうえで大きな影響を与えてきたからです。比較するならば、ボリバル革命プロジェクトがベネズエラの疎外された大衆に与えた影響は、20世紀におけるニューディール政策と公民権運動が、アメリカで権利を奪われていた人々に与えた影響と同等であると言えます。

ベネズエラの最大の経済問題は、2015年以降に科されてきた米国の制裁です。過激派野党は、自らの政治的失敗を強制の問題に転嫁しようとしてきましたが、実際には、ボリバル・プロセスはその直接性と参加型の性格によって、現在も多数派の支持を広く維持しています。人々は、自らの意思を直接表明し、自分たちに影響を与える公共政策を優先し、意思決定に関与できていると感じています。一方で、野党は繰り返し動員力の欠如を露呈してきました。大統領が拉致された現在においても、彼らが大規模な動員を行えない事実は、極めて示唆的です。むしろ、今日のベネズエラの街路は、政府支持者と外国の介入に反対する人々で溢れています。

バスカー・サンカラ

米国の介入には反対する一方で、政府の民主的実績や経済運営には批判的な人々、ベネズエラ国民も含めて、そのような人々に対してはどのように向き合うべきでしょうか。

カルロス・ロン

私は、アメリカの介入主義に反対する彼らの愛国心を称賛します。祖国を愛しながら外国の介入を求めるることは、誰にもできません。それは根本的な矛盾です。経済政策やその他の政治課題に関する意見の相違は、外国の介入によってではなく、ベネズエラ国民同士が平和的かつ内部的に解決すべきものです。

バスカー・サンカラ

経済状況についてお聞きします。米国の圧力にもかかわらず、状況は改善しているのでしょうか。

うか。過去 10 年以上の経済低迷は、主に制裁と経済封鎖によるものなのでしょうか。それとも、政府の経済政策にも誤りがあったとお考えですか。

カルロス・ロン

ベネズエラ最大の経済問題は、2015 年以降の米国の制裁、特に石油産業に対する制裁です。石油産業は一時、壊滅的な打撃を受け、2020 年の収入は 2014 年比で約 90% 減少しました。しかし、マドゥロ大統領率いる政府は復興策を講じ、国連ラテンアメリカ・カリブ経済委員会(ECLAC)によれば、2025 年末までに 9% の経済成長が見込まれています。これは、ベネズエラ経済が過去 20 四半期連続で成長を記録していることを意味します。

また、制裁体制下という制約のもとで、ベネズエラは 14 の生産エンジン、すなわち戦略的セクターを新たに発展させてきました。たとえば、歴史的に輸入依存度が高かった食料生産は、現在では国内需要の 80% 以上を自給できるまでに拡大しています。

バスカー・サンカラ

ボリバル・プロセスは、持続的な民衆の力を構築するうえで、どの点で成功し、どの点で不十分だったとお考えですか。

カルロス・ロン

特定の地域空間において、直接民主主義的な参加を伴うコミニーンの形成は、革命における最大かつ最も持続的な成功であったと考えています。これは、私にとって最大の成果です。しかし、国土全体が等しくコミニーン的プロセスを発展させる条件を備えていたわけではありませんでした。地理的、文化的、生産的条件の違いにより、一部地域では成功したコミニーン・プロジェクトの構築が困難でした。ただし、こうした条件は今後構築可能であり、その発展は時間の問題だと考えています。

バスカー・サンカラ

今回の危機がプロジェクトの敗北ではなく再生を促すものであるとすれば、国内における再生の源泉は何だとお考えですか。

カルロス・ロン

今回の危機は、共同体形成プロセスをさらに深化させ、国家として外国の侵略や依存から自国を守る能力を確保する必要性を明確に示しています。共同体形成の取り組みは、官僚主義を克服し、相互連携を強化する点で着実に成果を上げてきました。この危機を契機として、このプロセスは新たな推進力を得るでしょう。共同体形成が強化されるほど、その不可逆性もより確かなものになると考えています。

バスカー・サンカラ

ラテンアメリカ全体を見渡したとき、今回の攻撃は、この地域における左派の主権に対する米国の寛容が終わったことを示すシグナルだとお考えでしょうか。ブラジルの社会民主主義政権やキューバ革命には、どのような影響が及ぶでしょうか。

カルロス・ロン

米国は、自らが歴史的に勢力圏と見なしてきた地域において、再び優位性を主張するプロジェクトを進めているように見えます。MAGA の「プロジェクト 2025」では、米国のサプライチェーンと経済的優位性を保証するために「再半球化」の必要性が検討されました。最近発表された国家安全保障戦略でも、この地域の戦略的資源に対する支配を確保するため、モンロー主義の再構築が議論されています。このような状況下では、ワシントンは自国の利益に沿わない独立したプロジェクトを抑え込もうとするでしょう。アルゼンチンやホンジュラスでは選挙への介入が見られ、コロンビア、ブラジル、メキシコなどでは、穏健で進歩的な政権に対してさえ脅迫や強制が行われてきました。ベネズエラやキューバのように、より革命的なプロジェクトは、直接的な侵略の対象となっています。

バスカー・サンカラ

ラテンアメリカにおける左派政党、労働組合、社会運動の間で、地域的な調整を行うためのメカニズムは何でしょうか。

カルロス・ロン

この地域の社会組織や民衆組織は、最低限共有できる共同アジェンダが何であるかについて、幅広い議論を行う必要があります。ベネズエラでは、2023 年と 2024 年に「世界社会オルタナティブ」と呼ばれるイニシアチブが立ち上げられ、そうしたアジェンダの構築が試みられました。他にも同様の取り組みは存在します。この議論では、宗派的な分裂を乗り越え、人々が日常的に直面している問題に対する実践的な解決策を盛り込むことが重要です。また、キューバ、ニカラグア、ベネズエラにおける変革と革命のプロジェクトと連帯し、それらを擁護する必要があります。そのうえで、左派に共通する文化的アイデンティティの基盤を構築しなければなりません。

バスカー・サンカラ

米国の反戦勢力は、今後どのような行動を取るべきでしょうか。

カルロス・ロン

米国の反戦運動は、ベネズエラへの侵略を非難するうえで、これまで重要な役割を果たしてきました。今後は、政治組織間の橋渡しをさらに強化し、より力強い姿勢を示す必要があると考えています。

バスカー・サンカラ

5年後、ボリバル革命の再生はどのような姿になっているでしょうか。また、敗北とはどのような状態を指すのでしょうか。

カルロス・ロン

5年後の再生とは、より強固な共同体、民衆組織と国家機関とのより良い連携、そしてより高い主権と独立性を備えた国家が実現している状態だと考えます。一方で敗北とは、新自由主義と米国の影響力への回帰を意味するでしょう。

バスカー・サンカラ

このような厳しい情勢の中で、あなたを政治に関与させ、なおかつ希望を持たせているものは何でしょうか。

カルロス・ロン

この局面が、ラテンアメリカ左派の結束と発言力をさらに強める契機になることを期待しています。容易な道ではありませんが、多くの左派が極右の台頭に不満を抱いている今こそ、その必要性が強力な原動力になると信じています。

革命家は、政治的な一貫性を保たなければならぬと私は考えています。状況が容易なときに不正と闘うのであれば、極めて困難な状況においても闘う覚悟が必要です。

私は外交の力を信じています。率直さと敬意をもって対話することで、想像を超える成果を生み出すことができる信じています。だからこそ、私はいかなる対立よりも外交を優先します。より良い世界は実現可能である信じているからこそ、私は革命に身を捧げています。チャベス政権下のベネズエラでその可能性が現実となるのを見届け、マドゥロ政権が選出された後に、ベネズエラが攻撃を受ける現実も目の当たりにしました。

私にとって社会主義はユートピアではありません。それは現実のものであり、実現は困難でしたが、確かに存在してきました。私は社会主義を築くための闘いの中で生きてきましたし、その成功を見届けたいと考えています。この社会主義の地平に対する最大の脅威は、特に現在、より切迫し危険な段階にあるアメリカ帝国主義です。地球を救い、社会正義を実現する唯一の可能性は、この帝国を打倒することにあると私は考えています。